



# あまぬまだより

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumashou/>

杉並区立天沼小学校



## 1年を振り返って

主幹教諭 稲葉 八重子

**今**年もあとひと月で終わろうとしています。毎年そうであるように、今年も様々な出来事がありました。はやぶさ2の「りゅうぐう」着陸は、夢のある素晴らしいニュースでした。プロジェクトに関わった人たちが、本当にうれしそうに成功をたたえ合っていた場面が印象に残りました。

**ミ**ッションの成功とともに、その過程やエピソードについてもいろいろと伝えられました。その中で心に残ったことは、宇宙科学の最先端で研究を進める人たちが、あらゆる失敗を想定して気が遠くなるような回数のシミュレーションや訓練を繰り返してきたということでした。成功を目指す上で失敗やトラブルは当然あり得ることとして、その問題点を解決するために、様々な専門家がそれぞれの場で力を尽くす、また、異なる専門家が集まって解決に向けて意見を出し合う。そして、何が起こっても対応できるという自信をもって着陸に臨んでいたことに感銘を受けました。

**失**敗するために事を始める人はいないと思います。しかし、必ず成功させるためには、失敗から逃げるのではなく、失敗に正対する強い意志が必要だということを考えさせられました。

**天**沼小学校は、これまでプログラミング教育に積極的に取り組んできました。10月には、東京都プログラミング教育推進校として研究報告会も行いました。ICT機器を活用したプログラミング学習では、試行錯誤が活動の中心になります。子どもたちは、失敗しても根気強くプログラムを作り直すことを繰り返し、自分の思うようにロボットを動かそうと考えます。また、友達と一緒に修正点について考えたり、アイデアを出し合ったりする様子も見られます。論理的思考力や他者と協働しながら粘り強くやり抜く態度は、これからの社会を生きていく子どもたちにとって必要な力であり、プログラミング教育はそれらを育むことができる学習であると考えます。

**も**う一つ、心に残ったのはラグビーワールドカップです。私はラグビーについてほとんど何も知らず、周りの先生方の熱い思いに感化され、どのようなスポーツなのかとテレビで観戦しました。

**ど**の試合を見ても、心打たれ涙の出るようなシーンがありました。日本代表の試合は、同じ試合の映像を何度も見て、そのたびに感動しました。そして、印象深かったのは、選手から聞かれた「犠牲」という言葉でした。初めて聞いたときは違和感を覚えました。何を意図しているのかよく分かりませんでした。しかし、インタビューの度に選手たちから「犠牲」という言葉が発せられ、歌の「ノーサイド」の歌詞にも「犠牲」という言葉が使われていることに気付き、ラグビーは「犠牲」という言葉が象徴するようなスポーツで、その言葉を体現する選手たちの姿を見て感動するのだと思い至りました。

**今**の時代、「犠牲」には時代錯誤の悪しきイメージがあるのは事実だと思います。でも、ラグビーの試合を観て、多くの人が心打たれ魅せられたことも事実です。「犠牲」という言葉のイメージはあまりよくありませんが、「自分の役割を果たす」「誰かのために動く」として捉えると、子どもたちにも伝えることができるのではないかと思います。また、多くの外国の人たちがラグビーに熱狂する様子からも、多くの日本人がそうであったように「ラグビーというスポーツが伝えるものに惹かれる」といった同じ感性をもっているのだ、ということに新たな驚きを覚えました。

**今**年は令和元年、新しい時代の始まりでした。天沼小学校でも、新しい取組、新たなスタートを意識することがたくさんありました。教育は、立ち止まることではないものです。来年もいろいろな新しい取組を臆することなく取り入れ、歩み続けられる天沼小学校でありたいと考えています。

### \*\*\* 今月の目標 \*\*\*

#### 生活

学校をきれいにしましょう  
(2学期の反省をしましょう)

#### 保健

かぜやインフルエンザを予防しよう

#### 給食

みんなで楽しく食べましょう



# 12月の行事予定



## 学校支援本部コーナー

天沼小学校支援本部(あまぬまワンダラーズ)の活動を紹介します

### 地域とつながる授業のお手伝い

今年度こだま学級は地域の方々との交流授業を行いました。天沼弁天池公園の花壇等を管理している「荻の会」の皆様にご協力をいただき、ひまわりの種まきから水やり、種の収穫まで約半年間にわたり、一緒に作業をしました。

地域とのつながりの中で行われる授業は、他にも伝承遊び体験、町たんけん、お店番体験など多々あります。このような授業に快くご協力くださる地域の皆様へ感謝申し上げ、今後も支援本部は学校と地域を結ぶパイプ役となれるように活動して参ります。



荻の会の方と一緒に種とり作業

### 12月の朝遊びカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	曜	行事予定
1	日	
2	月	5時間授業 全校朝会 長縄記録週間始 チャレ縄1 お店番体験3(3/4h) 保護者会全(15:00) SC来校日
3	火	朝縄
4	水	読書34こ⑥ 昼縄2 委員会⑧
5	木	朝縄 お店番体験3(3/4h) チャレ縄3
6	金	朝縄 お店番体験3(3/4h) チャレ縄4 おはなし会2
7	土	土曜授業 音楽朝会④
8	日	
9	月	全校朝会 プラネタリウム6こ(3~6h) 給食費引落日 HJ SC来校日
10	火	朝縄 HSフォ
11	水	朝縄 安全指導 昼縄6 クラブ活動⑦
12	木	朝縄 社会科見学(国会等)6 チャレ縄5
13	金	長縄記録会 長縄記録週間終
14	土	
15	日	
16	月	全校朝会 書き初め① 避難訓練 HJ SC来校日
17	火	体力 書き初め② HSフォ
18	水	読書56⑥ 書き初め③ タンゴ発表(昼/アリーナ)クラブ活動⑧
19	木	集会⑥ 書き初め④ おはなし会1 SC来校日 消防署見学3
20	金	体力
21	土	ハピさた⑥(ウインターコンサート、~14:00)
22	日	
23	月	午前授業 健康朝会⑦(保健)
24	火	午前授業 給食終
25	水	特時 終業式(1h) 大掃除
26	木	冬季休業日始
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

冬季休業 12/26~1/7  
 始業式 1月8日(火)  
 給食始

## 学校運営協議会コーナー

### ~天沼小の子ども達の心と体の健康~

スクールカウンセラーの亀井先生と養護教諭の上農先生にお話を伺いました!

④認心理師・臨床心理士である亀井先生は、一人の相談につき2時間の面談時間を確保しながら、相談に応じていらっしゃいます。相談の予約については相談室への直通電話(03-3392-6450)や、養護教諭の上農先生に連絡する方法があります。また、担任の先生を通して連絡する場合もあるそうです。毎年相談件数は、1~2学期の間は比較的少なく、3学期になると増える傾向にあるとのこと。

亀井先生からは、「相談」というと堅苦しくなりハードルも高くなってしまいますので、先生を見かけたら「気軽に」「おしゃべり」をするような感覚で、いつでも話しかけてほしい、とのメッセージをいただきました。

⑤養護教諭の上農先生は、毎学期の計測の際に保健指導を行っています。生活リズムの整え方、歯磨き指導、心の健康、健康管理など、必要に応じたお話をしてくださっています。また、毎学期の始めにはウェルネス週間として、生活のリズムを戻すための取組もされています。

上農先生に天沼小の子ども達の特徴をお聞きしたところ、軽いけがで来室や休日のけがで来室をする児童が多いそうです。そこで、子ども自身で簡単な手当ができ、健康管理ができるように指導をしていきたい、とのメッセージをいただきました。

先生方のお話を伺う中、子ども達の心と体の健康のための取組は、ご家庭の協力が不可欠だと感じました。子ども達が心も体も健康に過ごすために何ができるか、一緒に考えていきましょう。

研究主題

「自ら深く考える児童の育成 ～考えるって おもしろい～」

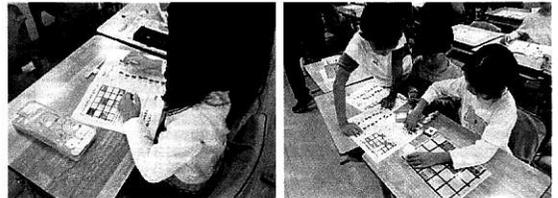
本校は東京都プログラミング教育推進校として、プログラミング教育の研究を行っています。10月28日には、「プログラミング教育研究報告会」を行いました。研究報告会は、2年間取り組んできた内容を他校の先生方に伝達することを目的としています。研究報告会では、校内研究の内容、教員のICT研修、プログラミング教育、情報モラル教育の実践授業を紹介しました。その後、本校の教員が講師となり、プログラミング教材の体験会を行いました。杉並区内から約30名の先生方が参加され、来年度から始まるプログラミング教育について熱心に学ばれていました。また、北は旭川市から、南はマレーシアから総勢70名程の先生方が来校しました。

校内では年間指導計画を作成してプログラミングと情報モラル教育を進めています。

それでは今年度行われたプログラミング教育の校内研究授業の様子をお知らせします。

【研究授業① 10月30日 2年3組】

「True True(トゥルトゥル)」というプログラミング教材を活用しました。生活科の町たんけんを意識し、ゴールを目指してロボットを動かそうと一人一人が一生懸命に考えていました。友達との話し合いも活発で協力して学習課題に取り組んでいました。



【研究授業② 11月15日 6年1組】

自分たちの生活をよりよくするためにプログラミングを活用する方法を考えました。一人一人が自ら設定した課題解決に向けて「ドローン」が「CodeyRocky(コーディーロッキー)」をプログラミングしました。別の課題をもった友達との意見交換をしながら目的に応じたプログラムに近付けていきました。課題解決のためにプログラミング教材を選択しながら学習を進める6年生は流石でした。



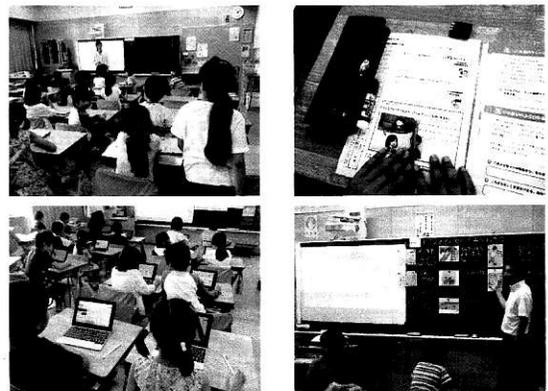
今後は1月24日に4年生の研究授業を計画しています。

●●● 天沼小学校の情報モラル教育について ●●●

本校では1年生から学級活動の時間の一部で情報モラル教育を進めています。子供たち自身が日常生活においてタブレット端末やスマートフォンなどに触れる機会が増えた現在、情報モラル教育を充実させていくことは重要なことであると言えます。情報教育全体の中で、情報モラル教育とプログラミング教育は自動車の両輪となる存在であると本校では考えています。子供たちが将来、ますます進歩していく情報メディアと上手に付き合っていくためにどちらが欠けてもならないので、情報モラルとプログラミングをバランス良く実施するようにしています。

情報モラルの授業では「SNS東京ノート」という教材を中心に使用しています。この教材は低・中・高学年の3冊に分かれており、子供たちの発達段階に応じた学習を進めています。具体的な内容としては、「メールなど、文章のやり取りの中では、同じ言葉でも相手によって受け取り方が違う」、「メディア機器に夢中になって長時間使い続けてしまうと、生活にどのような影響が出るのか」のように子供たちに身近な事例を多く扱っています。

情報モラルを身に付けるために学校では今後も情報モラル教育を進めていきますが、学習の特性上、ご家庭でも関心をもっていただくことでより高い効果が期待できると考えています。情報メディアとの付き合い方について、ご家庭でも話し合ったり、ルールを作ったりしていただけますとありがたいです。SNS東京ノートについては東京都教育委員会のホームページでも公開されているので、ぜひお読みいただければと思います。



# 音楽会

初めての音楽会。緊張していた子も多かったですが、今までの練習の成果を大舞台でも十分に発揮してくれました。大きな声と笑顔で声を合わせた群読「ちいさい おおきい」。リズムに乗って、みんなで明るく歌った合唱「ともだち できたよ」。そして、それぞれのパートの音を聴き合って奏でた合奏「きらきら星」。一生懸命練習をして、難しい曲でも弾けるようになりました。



1ねん

3年生から学習したリコーダーでは、夏休みから少しずつ練習を積み重ねていきました。音の重なりを考えながら、きれいな音を出し、「すてきな日になれ」を演奏することができました。「怪獣のバラード」は、迫力のある声と、高音の美しい声とを交互に切り替えながら、元気のよい声で歌いました。合奏「ひまわりの約束」では、パートや楽器の重なる響きを味わいながら、指揮を見て、みんなが心をつなげて演奏する素晴らしさを体験しました。



3ねん

初めて挑戦した洋楽「WE ARE THE WORLD」では、自分たちのパートに自信をもって全力で歌うことができました。気持ちを込めて歌う姿は多くの人に感動を届けました。また、合奏「DEPARTURE」、リコーダー奏「風の通り道」では音だけでなく心も一つに素敵な音色を奏でることができました。



5ねん

「世界中の子どもたちが」は、毎日教室でも練習し、本番では大きな声で元気よく歌うことができました。楽器と歌で構成した「もみじ」やハンドベル奏の「上を向いて歩こう」は、友達の音をよく聞いたり、指揮者の合図をよく見たりして、気持ちを合わせて演奏できました。



こだま

国語で学習した「スイミー」の音楽物語に取り組みました。歌詞に気持ちを込めて、歌いました。鍵盤ハーモニカも学習の経験を生かし、フラットの混じる難しい曲でしたが、全員で吹きました。海の生き物のパフォーマンスもストーリーに華を添



えました。2年生全員で素敵な海の世界を表現できました。

2ねん

「4年生は、毎回の練習に常にめあてをもって取り組みました。そのめあてを達成するために「この練習で自分の何を磨けばいいのか」を強く意識し、自分たちの音を作りました。特に苦戦したのは、合奏「リベルタンゴ」。速いリズムを保ち続けることは、どの楽器にとっても至難の業でした。しかし、指揮者をよく見て互いの音を聴き合うことで、音も心も合っていました。一人ひとりが自分に



できる力を伸ばし、4年生らしいハーモニカを奏でた音楽会になりました。

4ねん

昨年度の連合音楽会の経験を生かして練習を始めた6年生。曲決めも演出も、実行委員を中心に考えました。自分たちが創り上げる舞台だと意識して、練習を積み重ねました。合唱も合奏も子供たちが課題を話し合い、よりよくなるように努力してきました。日を追うごとに音楽の幅が広がり、互



いの音を聴き合えるようになりました。みんなの思いを一つに、最高の演奏最高ののをすることができました。

6ねん

